



東大寺 212 世別當 筒井寛秀 筆

No.43

2018. 6. 1

【発行】

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会

<http://www.narakenshiren.gr.jp>

【発行責任者】 松本 倫子

【メールアドレス】

honbu@narakenshiren.gr.jp

新年度を迎え退任のとき

～父母の会への感謝と願いを込めて～

会長 松本 倫子

奈良県肢連は設立五十周年記念事業をなし終え、木々の芽吹きと共に新しく歩み出すことになりました。多くの皆様のご支援に感謝申し上げ、新しい体制の県肢連に引き続き温かいご支援を賜りま

深まればうれしく思います。式典・祝賀会には県肢連や地域父母の会の活動と願いをご理解いただきたいと思い、通常総会のご来賓に、国会議員、奈良県知事はじめ市町村の首長及び福祉行政関係者もお招きしました。県肢連の礎を築いてくださった諸先輩もお招きし、和やかな感謝の会になりました。総勢二百九名、うち来賓八十五名・元会員十七名。ご来賓

五十周年記念事業は記念誌作成、記念式典・祝賀会、親子一泊社会見学事業の三事業とし、いずれも十二名の実行委員会企画しました。会員の皆様に参加いただいたとともに祝い、ご支援いただいた皆様への感謝と会員同士のきずなを深めることができました。

現在、親にも子にも高齢化による課題が山積しています。介護できなくなった時や親亡き後を見据え、親の役割は、子どもの自立心を育て、お世話になっっている事業所のみなさんと信頼関係を築くこと、そして経済的なことも含め将来設計を元気なうちから考えておくことではないでしょうか。

記念誌は、障害のある子どもたちへの親の思いを核にした、五十年にわたる親たちの一生懸命で真摯な活動の記録誌となりました。中味については後掲に譲りますが、次世代の会員さんへの継承ができたと思います。県肢連と地域の父母の会の活動の現状と課題もまとめていますので、現代の会員のニーズも読み取れます。会の研修会に活用したり、広く市民の方や未加入の親御さんたちに読んでいただいて、父母の会に対する理解が

今、福祉サービスの何もなくあった時代に比べれば、随分と暮らしやすくなってきましたが、残念

ながらまだ十分に行き届いた制度には成り得ていません。使いづらい移動支援、住まいの問題、所得保障、六十五歳の介護保険優先制度、福祉事業所・施設での医療、医療を伴うショートステイの確保等、福祉・医療サービスの向上と整備に向けて、父母の会としては、これまで同様に子どもたちの代弁者として、市町村や県・国に声を届けていってください。

養護学校では、医療ケアの必要な子どもたちが増えています。その子どもたちの学校卒業後の生活を支えるために、奈良県中和・南和の拠点施設として、奈良県総合リハビリテーションセンターの「さくら」を人工呼吸器を装着した人にも対応できるように整備していただくことを、新年度の第一課題として県肢連挙げて取り組んでいただきたいと思います。

全肢連情報には新しい国の情報が記載されています。施策と考え方の情報を会員のみなさん、少なくとも理事のみなさんで共有しながら会活動を進めてください。平成二十九年度をもって私は、体力の限界を感じ会長を辞任させていただきます。この広報誌「道」でご挨拶を申し上げるのもこれが最後となりました。私の人生四十歳から七十四歳までの三十年余り、

父母の会の役員をさせていただき
ました。私の人となりを作ってい
ただいたように思います。長きに
わたりご支援いただきまして本当
にありがとうございます。

父母の会との関りを振り返つ
てみますと、息子が十三歳中一の
秋、京都から奈良養護学校に転校
して、翌年奈良市の父母の会の副
会長を二年間努め、息子の高等部
卒業と同時に奈良市の父母の会の
会長を十八年間させていただき、
後半の十年間は県父母の会の副会
長を野田会長の下で兼務しました。
その後県肢連会長を平成二十九年
度まで十二年間させていただくこ
とになり、今日を迎えました。市
の会長と県の会長の、合計三十一
年間は、平成時代のほとんどにわ
たります。この経験をとおしてよ
かったことは奈良市会員の皆様の
現状と困っておられたこと、奈良
市の障害福祉施策や動きを把握し
て県肢連の活動に活かせることで
した。さらに民生児童委員を六年
間、その後、人権擁護委員を九年
間受けましたが、常に障害者のこ
とを理解してもらいたいという思
いで発言してまいりました。人の
つながりと、障害者理解を広める
のに少しは役に立ったのではない
かと思えます。

昭和六十年から平成十五年ごろ

までは、学校卒業後の進路開拓の
時代でした。奈良市作業所、社会
福祉法人ならやま会、やすらぎ広
場、もえぎ作業所、NPO法人わ
かくさもえぎ、奈良県重症心身障
害児(者)を守る会、静的弛緩誘
導法訓練の陽だまり笑顔の会など
の創設に直接携わりました。重症
心身障害児学園・病院バルツア・
ゴードル、フリーシユタツドなか
がわの設立には理事長さんの要請
に基づいて協力しました。重い障
害のある人も、軽い障害のある人
も、すべての子どもたちの卒業後
の長い生活を保障されたいとの思
いで、役員さん達と活動しました。

資金作りに、奈良市のふれあいノ
ート販売(十二年間)と市障連バ
ザー、県肢連のバザーとチャリテ
ィー墨書展は、子どものための一
生懸命な親たちの活動でした。そ
の中で会員同士の思いやり、やさ
しさ、力を合わせることで、和を重
んじることが父母の会の良い特色
となってきたように思います。

自分を振り返ってみますと、障
害のある子を授かって私の人生は
悲しみも喜びも人の倍の人生だつ
たと思います。子どもは私の生き
方を教えてくれましたし、子ども
がいて父母の会との出会いがあつ
たので明るく元気で生きることが
できました。子どもたちの生きづ

らさを何とかしなければ、という
思いに後押しされて常に前向きで
活動していました。さらに活動を
通して多くの方に出会い、出会っ
た方々とのつながりが私の宝物に
なりました。皆様感謝いたします。

県肢連の良いところは、障害の
ある子のことを思い活動する、親
の一生懸命なまじめな姿勢です。
前田妙子会長はじめ本部役員のみ
なさんは、これまで私と共に県肢
連の活動・事業を担ってまいりま
した。その中でリーダーとしての
資質を積み重ね、新しい芽を持ち
合わせた若い人たちですので、今
まで同様ご理解とご支援を賜りま
すようお願い申し上げます。

私は本年度から相談役を仰せ
つかりました。微力ではございま
すが協力させていただきたいと思
いますので、よろしくお願いいた
します。障害のある人が安心して
住める共生社会の実現をめざして
いつか障害も個性と言える時代が
来ることを願って、皆さんと共に
歩ませていただきたいと思います。

父母の会に寄せて

奈良県福祉医療部

部長 林 修一郎

本年四月に奈良県福祉医療部長
を拝命いたしました林でございます。
奈良県肢体不自由児者父母の
会連合会の皆様には、平素から本
県の障害福祉行政へのご理解、ご
協力をいただいておりますことに
感謝申し上げます。

また、父母の会におかれまして
は、肢体不自由児者の生活の向上、
社会参加の促進など、様々な活動
に積極的に取り組んでいただいで
いることに、心から敬意を表しま
す。

さて、奈良県では今年度、いま
で別々の部であった健康福祉部と
医療政策部とを一体化し「福祉医
療部」として組織の改編を行いま
した。私は、福祉の分野だけでな
く、医療政策局長も兼務させてい
ただいておりますので、これまで
以上に、福祉と医療との連携を深
め、県民の皆様いきめ細やかな対
応や支援ができるよう、施策を展
開していきたいと考えております。

県の障害福祉施策を進める障害
福祉課においては、昨年四月に障



害理解促進係を設置し、障害に対する理解促進に関する施策を進めているところです。

平成二十八年四月に施行した「奈良県障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」に基づき、全ての県民が、障害の有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し合いながら、安心して暮らすことができ、社会の実現を目指し、まほろば「あいサポート運動」などの取り組みを引き続き進めていくことで、障害理解の促進に努めてまいります。

県では昨年度、全国で初めて「国民文化祭」と「全国障害者芸術・文化祭」を一体開催いたしました。「障害のある人となしの人との絆を強く」を基本テーマの一つに掲げ、障害のあるなしにかかわらず、誰もが参加し、楽しむことができる文化芸術活動を展開するきっかけとなりました。今後は、これまで開催してきた「奈良県障害者芸術祭」を「奈良県障害者大芸術祭」と名称変更し、「奈良県大芸術祭」と一体となって開催していく予定です。

また、平成二十七年四月から五年間を対象とした「奈良県障害者計画」について、昨年度に一部見直しを行いました。この計画は、「障害のある人が暮らしやすいと

感じる」ことができる奈良県」を目標に掲げ、

「一 障害のある人に寄り添った生活全般にわたる包括的な支援」
「二 ライフステージを通じた切れ目のない支援」
を施策推進の基本的な考え方としております。

これからも、より効果的な障害者施策を推進できるように努めてまいりたいと思っておりますので、父母の会の皆様方には、今後ともご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、父母の会の益々のご発展を心から祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

養護学校より

「一年が過ぎて」

奈良県立明日香養護学校

進路指導主事 三宅 道彦

平成二十九年四月に県立明日香養護学校の進路指導主事になって一年がすぎました。この一年間で感じたことを記します。

僕は、特別支援学校に勤めて二十八年目になりますが、進路に関

することにについては本当に知らないことだらけでした。まずは、福祉関係の用語、居宅介護や移動支援、就労継続支援A型やB型など様々な専門用語があり、なんとなく聞いたことがある言葉でしたが正確な意味が分からず、教員や保護者から説明を求められてもまずは前任者やインターネットで確認してから説明をするというような有様でした。

次に地理です。奈良県北部については、以前に勤めていた県立奈良養護での実習でいろいろな事業所を体験させてもらっているの土地勘もあり、どこにどんな事業所があるのかも頭に入っていました。磯城郡から南部の明日香養護学校の校区、特に五条、御所、吉野は、学生の頃にバイクで走って以来、ほとんど行ったことのない場所でした。四月初めの仕事は、児童生徒の住んでいる各市町村の障害福祉課に行つてあいさつと名刺配りをする事です。明日香養護の校区は、肢体、訪問、病弱を重ねると結局全県になるので北は奈良市から南は十津川村までになります。住んでいない市町村を除いても十九の市町村になります。

その後は、地区別懇談会の案内を持って児童生徒が利用している、または利用しそうな事業所を訪問して参加をお願いしました。昨年

に比べると今年は、訪問する順番を組み立てられるようになったので短時間でより多くの事業所を訪問できるようになりましたが、昨年は一カ所訪問したあと学校に戻って地図で確認すると行った事業所のすぐそばに別の事業所があったということもよくありました。初めて何う事業所を回るのだから職員の方は、初めて会う方がほとんどで緊張もしますが、その緊張の中で卒業生の笑顔に会うとほっとします。昨年一年間で様々な事業所を訪問したので職員の方や利用者との顔なじみになった事業所も増えてきました。それぞれの事業所には、個性的で魅力的な笑顔の施設長や職員、利用者の方々がおられます。今は、疑問に思ったことをインターネット等ですぐに調べられる時代になりましたが、実習や自立支援協議会などを通して顔なじみになると児童生徒の進路や普段のサービス利用の相談についても腹を割って相談ができ、教員の視点にはない幅広い見地から意見をもらえることが分かってきました。そう思うと市町村の福祉課や事業所などと顔の見える関係構築ことが進路指導の第一歩だと思えます。

今年も昨年の行ったことのない事業所にも足を伸ばし、さらに関係を広げていきたいと思えます。

「奈良養護学校の進路支援について」
奈良県立奈良養護学校
進路支援部 部長 平谷 嘉基

平素は、本校の進路支援にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

現在本校は、肢体不自由教育部門と病弱教育部門の二つの部門のそれぞれに小学部、中学部、高等部があり、総計百二十四名の児童生徒が在籍しています。肢体不自由教育部門の児童生徒は、家庭または東大寺福祉療育病院から本校に通学してきます。病弱教育部門では、東大寺福祉療育病院内にいる東大寺光明園教室、独立行政法人国立病院機構奈良医療センター内にあるバンビ教室、重症心身障害児学園・病院バルツァ・ゴードル内にあるバルツァ・ゴードル教室のいずれかの教室へ教員が行き、施設内訪問教育を行っています。さて、近年の本校の進路状況としましては、大学進学や就職、障害者総合支援法の中の就労に関する事業等を選択する生徒が毎年一〇二人程度います。また、肢体不自由教育部門に在籍する生徒の中でも東大寺福祉療育病院から通学している生徒と病弱教育部門に在籍する生徒については、東大寺福祉療育病院や独立行政法人国立病

院機構奈良医療センター、重症心身障害児学園・病院バルツァ・ゴードルに卒業後も生活の場を継続する生徒もいます。肢体不自由児教育部門の家庭から通学する生徒は、生活介護の事業所を進路先として選択することが多いのが現状です。しかし、医療的ケアが必要な生徒が多くなり、希望する生活介護の事業所を進路選択できるところが非常に難しくなってきました。また、学校に月曜日から金曜日の五日間通学することができていた生徒であっても、卒業後はさまざまな理由により生活介護の事業所に五日間通所することが難しかったり、複数の生活介護の事業所を併用したりしなければならぬということが起こってきています。そんな現状の中、肢体不自由児教育部門の高等部では、高等部二年生で進路相談（本人、保護者、学級担任、進路支援担当）、高等部三年生では支援会議（本人、保護者、学級担任、進路支援担当）に加え生活支援相談員）を実施しています。そして、一年生から毎学期の保護者懇談時にはその都度、本人や保護者から卒業後の進路に関する思いを聞き、卒業後に向けての準備を進めていきます。

本校の進路支援部としては、児童生徒を取り巻く一番身近な支援者＝家族・家庭も進路支援を行う上で大事であると考えています。昨年度までは高等部の生徒を対象に進路支援だけでなく、生活支援も含めて対応していましたが、昨年度末より、高等部にかかわらず、保護者もしくは学級担任からの生活支援に関する相談を進路支援部として受けることにしました。このことにより、高等部入学前より、対象の児童生徒の計画相談事業所や福祉サービス事業所、そして保護者と連携を図ることができるようになってきました。児童生徒を取り巻く家庭環境が安定することにより、より多くの支援者の協力によって、学校卒業後の生活が充実していくと考えています。支援者となる各関係機関と連携を深め、今後よりよい進路支援を行っていきたくと考えています。

今後とも、奈良県肢体不自由児者父母の会連合会の皆様よりご支援、ご協力をいただき、様々な情報をご提供いただきますようお願い申し上げます。

奈良県立明日香養護学校
前PTA会長 東田 玲子

平成二十九年度のPTA活動は、広報部は六月に広報誌「あすか」、

三月に「PTAだより」を発行しました。進路部は年三回の学習会と動作の学習夏期集中学習会を行いました。また、現地研修として「Good Job!センター香芝」「moreすまいる明日香」を見学しました。部員研修では福祉就労の場として「高田園」を見学したあと、利用者が就労継続支援B型事業として働いておられるレストラン「Ohisama Lunch」でランチもしました。車イスを必要としない方々の就労施設を見学するなど、昨今の明日香養護の子どもたちの状態に合わせて見学施設の巾をひろげました。

子どもの障がいはいは様々ですが子どもを思う親の気持ちは同じです。会員どうしの交流と日頃の疲れを癒すためにリラクゼーションも企画し、メデイカルアロマセラピスト村上晃子先生を迎えて「ココロと身体を満たしてほぐすアロマ」アロマルームスプレーづくり体験を行いました。

また、継続して取り組んでいる防災研修では、ご自身も車イスを利用されているLLPユニバーサルデザイン企画代表の梅紀久代氏より「命をまもる みんなで助か」だきました。学校からは大規模災害時の対応として、保護者が準備

した防災袋を学校で保管してくださることになり、今後具体的に進んでいく予定です。

平成二十九年度は奈良県高等学校PTA協議会特別支援教育部の部長校を担いました。本校と西和養護の二校を見学していただく視察研修会を企画し、先生方にも協力していただき教育講演会も行いました。一般の高等学校のPTAの方々に来ていただき、医療ケアを受けながら笑顔で学んでいる明日香の子どもたちの姿を見ていただくことで、障がい児教育を少しでも理解していただけたのではないかと思います。

二〇一九年八月二十二・二十三日には、第六十二回全肢P連の全国大会が初めて奈良で開催されます。明日香養護は昨年九月に実行委員会を発足し、先日は奈良養護との第三回合同実行委員会が開かれるなど、両校の実行委員会が中心となり準備をすすめているところです。

最後に、多くの方々にご協力いただき、PTA活動を無事終えましたことを深く感謝するとともに、子どもたちがよりよい学校生活を送れますよう、今後ともご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

奈良県立奈良養護学校

前PTA会長 山本 真由美

平成二十九年度は、本部役員六名・保体部七名・広報部六名・進路対策部七名に加え、平成三十一年に奈良にて開催される全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会・全国大会に向けて奈良大会実行委員会を立ち上げ十六名の委員が、明日香養護学校さんの実行委員の方々と共に活動を始めました。校内では、広報誌ならNOW発行・ボランティアアカット・バザー用の手作り品作製講習会・親睦会・食育研修会・施設見学会・「子どもの将来についてお話をする会」では進路指導の先生方にもアドバイザーとして入っていただき、卒業後の子ども達の生活について話し合いました。

校外の活動におきましても例年通り、学校や子ども達の事を少しでも多くの方々を知り、理解していただける様、地域啓発活動としてPTAバザーをイオン大和郡山店と、ザ・ビッグエクストラ大安寺店のご協力を得て開催しました。イオン高の原店では、毎月十一日の「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に役員が順番で参加し夏休みには、児童・生徒も一緒に店頭での呼びかけに参加し、お客様

や、お店の方々の温かいお心に触れながら店頭活動をする事が出来ました。

そして、平成三十一年の全肢PTA奈良大会という大きな大会の開催を控え、教職員の方々と保護者が力を合わせて情報収集をしたり、明日香養護学校さんとの合同実行委員会では活発に意見交換をしたり、また回を重ねるごとに学校間の親睦も深まり全国大会の話題に留まらず様々な情報交換の場となりつつあります。

こうして、今年度も多くの方々のご理解とご支援をいただき無事に実り多い一年を終える事が出来ましたこと深く感謝いたします。

最後に、これからも子ども達が生き活きとした学校生活を、また卒業後、地域社会においてより良い生活を送れることを願い、様々な繋がりを大切にPTA活動を進めてまいりたいと思っておりますので今後も温かいご指導をお願い申し上げます。

結成五十周年記念事業

結成五十周年を迎えるにあたり、「記念誌の発行」「記念式典・祝賀会」「社会見学事業」の三つの事業を記念事業とし、実行委員会を立ち上げました。

平成二十八年八月の第一回目の実行委員会から始まった企画会議は計四十回を重ね、平成二十九年三月をもって全ての事業を無事終えることができました。

ご支援ご協力をいただきました皆様にご感謝申し上げます。

1、記念誌の発行

三十周年記念誌を参考にしながら、五十年の歩みを記録として残したいとの趣旨のもと、記念誌作成の構想を練りました。なるべくわかりやすいようにと工夫をし、試行錯誤を重ねながらの工程となりました。また、校正にはかなりの時間をかけました。発行に至るまでの作業の経過をまとめ報告とします。

① 五十年の歩みの記録とするための資料を集める

*年譜の作成には時間をかけたこれまでの全ての総会資料が



ら記載するものを丁寧に拾い出し、また、発行した広報紙「ハローモニター」と「道」の全てに目を通し、総会資料に掲載されていないものを拾い出した

*資料編では、障害者自立支援法の度々の見直しがなされた平成二十年〜平成二十二年にかけて奈良県肢連が独自に実態調査をおこなった結果と、平成二十九年に再調査した「地域支援事業と入所者に対する移動支援」についての結果を掲載した

また、平成二十五年に開催した近畿福祉大会奈良大会の三分科会の報告書、平成三十年度の県に対する予算要望書は、今後の活動に役立たせていただきたいと考え掲載することとした

② 掲載する内容や掲載順など編集の構成を話し合う

*先輩諸氏が頑張って立ち上げた事業所の紹介をし、生きがいの場づくりの足跡を掲載する

*子どもたちにとって欠かせない医療について、重症児者を診る三医療機関に現状や展望、思いを寄稿していただく

*地域父母の会に活動内容や子ども達の現況、地域の課題をシートに記載していただき、調査結果から見えてきたこととして課題の整理をする

*今後の活動に繋げるため、これまでの組織変更の経緯と活動内容を整理し掲載する

*活動資金確保のための大切な事業であるチャリティー墨書展について記載し理解を深める

*支援している二つの訓練会の紹介をする

*子どもたちが利用している事業所の紹介をし、参考にしていただく

③ 各項目別に担当者を決め、寄稿の依頼や原稿を書く

④ 項目毎に全員で読み合わせ、間違いの無いように丁寧に目を通し校正する

⑤ 共同精版印刷(株)と打ち合わせをし、専門家のアドバイスをいただきながら更に校正を重ねる

このようにして約一年半、他の事業も並行してこなしながらの作業の中、実行委員会の大半を記念誌作成にあて全員で何度も読み返し校正を重ねようやく完成した記念誌です。今後の活動に役立たせていただく資料として活用していただければ幸いです。

(筒井)



2、記念式典・祝賀会

◇平成三十年一月二十七日(土)

◇奈良ロイヤルホテル

式典・祝賀会には、障害児者の暮らしの向上を求めて歩んできた県肢連の活動と願いを広くご理解いただきたいと思い、来賓に国会議員の方々をはじめ県内の行政、教育、医療、福祉関係の皆さま、

そして全肢連、近肢連の会長にご臨席いただきました。そして県肢連の礎を築いてくださった諸先輩方もお招きし、多くの会員の参加のもと盛大に開催いたしました。

式典では、松本会長、清水全肢連会長のご挨拶の後、奈良県知事荒井正吾様をはじめ衆参両議院の先生方、県議会厚生委員会委員長、奈良市長からご祝辞を賜りました。皆さまが父母の会の活動にご賛同下さり、温かいご支援のお言葉をくださいましたことに心から感謝いたします。また、たくさん心のこもった祝電も頂戴いたしました。

式典後は、奈良県肢連の活動のあゆみのスライドショーを行いました。三十年間から後のこの二十年間のさまざまな事業・活動の様子が映し出され、懐かしい思いでご覧いただけたことと思います。そして東大寺別当狭川普文様の

乾杯のご発声で祝宴が始まりました。祝賀会では、田原本町長、三宅町長はじめ各市町から地域行政の方々もお越しくださいましたので、行政の方々のそれぞれのテーブルに地域の会員も同席させていただきました。地域福祉のことなどゆつくりとお話しができたことと思います。

多くのご来賓の方々にご出席いただきましたので、引き続き祝宴中にもご祝辞を頂きました。天理大学准教授 奈良県障害者施策推進協議会会長の八木三郎先生は、障害者理解がなかった幼少期の悔しかったご自身の体験談を交えながら、父母の会の地道な活動が障害者福祉の向上に大きく貢献してきたとお話下さいました。

また、元明日香養護学校校長の河合淳伍先生は、明日香養護学校創立当初、ご自身も大学卒業してすぐの新任だった頃に、父母の会のお母さん達から肢体不自由の子ども達のことを随分教えてもらい、その経験がその後の教育に役に立ったと話して下さいました。

祝宴が続く中、休日にボランティアとして福祉施設等で津軽三味線の演奏活動をされている宇陀市父母の会の大向孝明さんの演奏が始まりました。「やぐらやぐら」「津軽じよんから節」の素晴らしい生

演奏に、会場中から大きな拍手が沸き起こりました。小学五年生の時に体が不自由となり、色々な苦難を乗り越えられ、ご結婚された奥様と一緒に参加して下さいました。出席していた本人部会の会員にも大きな力を与えて下さったことと思います。

本会の礎を築いて下さいました初代会長の小野宣代様と前会長の野田淳子様もご出席くださいました。「子どもの力を信じて、厳しく育てた」と話された小野さんは九十歳を過ぎてても豊饒(かくしゃく)とされており、野田さんの今も変わらぬエネルギーなご挨拶に、あらためて大先輩であるお二人が子ども達のためにと頑張ったこられた歩みが、五十年の県肢連の歩みに脈々とつながっていることを感じました。

また、野田秀雄様から五十周年を記念して心のこもった手作りの記念品をご寄贈頂きましたこと感謝申し上げます。

祝賀会では、会員同士のきずなも深まり、改めて父母の会の存在の意義を確認することができました。そして、これからも障害のある人達の暮らしの向上を求めて、会員同士力を合わせて歩む活力を得ることができました。

国や県だけでなく地域行政の方

にご出席いただいたことは全肢連会長からも高く評価していただきました。また、お越しく下さったご来賓のみなさまや会員、元会員の皆さまからも、とても良い式典だったとお声掛けをして下さいました。本会对する理解も深めて下さったことと思います。

開催までの準備段階から当日の進行に至るまで、多くの皆様に変お世話になりました。心より感謝とお礼を申し上げます。

(漸井、前田)

結成五十周年記念式典・祝賀会
に参加して

奈良市福祉部

部長 堀川 育子

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会の皆様には、平素より本市の障害福祉行政の推進にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

また、本年創立五十周年という記念すべき年を迎えられ、去る一月二十七日に「結成五十周年記念

式典・祝賀会」が盛大に開催されましたことに対しまして、あらためて心よりお祝いを申し上げます。時が経つのは早いもので、梅雨に紫陽花の花が鮮やかに映える季節になりましたが、今も、華やかな中にも厳肅な雰囲気のもと行われた記念式典ならびに祝賀会のこと、心に残っており貴重な機会をいただいたことを感謝しております。

松本会長のご挨拶の中で、県肢連の五十年の歩みについてお聞きし、歴代の会長様をはじめ役員の皆様が障害のある子ども達の幸せのために懸命に活動に取り組んでこられたご苦労と、子ども達をとりまく多くの関係者の方々の理解と協力、その積み重ねによつて五十年の歴史が築かれてきたということが強く伝わりると同時に、福祉行政に携わる者として責任の重さを感じました。

その歴史の中で国の障害者施策が推進され、さまざまな福祉制度が整備されている現在、本市ではお一人おひとりの状況に応じた支援ができるよう努めておりますが、引き続き、今年度に障害者総合支援法に基づき策定いたしました第五期奈良市障害福祉計画に設定した障害福祉サービスの各目標が実行できるように取り組んでまいります。

また、今の制度では対応できない新たな福祉課題については、基本的なことですが相手の立場にたつて考えることを大切に、できることを考えていく体制が必要だと考えていますので、どうか今後ともよろしくお願いいたします。

桜井市福祉保険部

部長 石田 幸余

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会が五十周年を迎えられ、その式典にお招きいただきました。

ひとことで五十周年というには言葉にできないくらい、ひとかたならぬご努力とご苦労が御有りだったと頭が下がるばかりでございます。

会の発足当時は、今ほど福祉制度の充実はなく、理解の乏しい中で活動であったと思料いたします。その中で連綿と支え合い、連携を強めてこられたのは、子どもたちのより良い未来の為、生きづらさを解消するための父母の会のみなさまの思いの強さ所以です。これからも、子どもたちの笑顔ある明日のため、ひいては共生社会の実現のために貴連合会がますます発展されることをお祈り申し上げます。

磯城郡 北川 佳代子

素晴らしい祝賀会でした。ご準備頂きました役員の皆様、ありがとうございました。

今回地元である田原本、三宅の町長様もご参加下さり、私たちの活動を知って頂く良い機会となりました。また、行政の方々とその地域の理事を同じテーブルにして下さり、緊張もしましたが親しくお話しもさせて頂き、「何かあったらいつでも言ってお下さい」と温かい言葉も頂戴しました。

私が父母の会の存在を知ったのは、娘が明日香養護学校に入学した昭和五十五年頃であったと記憶しています。また南部の方は地域の父母の会が少なく、明日香支部としてお仲間に入れて頂く形でした。今のようになんて情報が入り得る時代ではなく、父母の会で様々な勉強をさせて頂き、また世代を超えて先輩のお母様方と知り合いになり、父母の会と養護学校は私にとつて大きな学びの場となりました。

今回の祝賀会で懐かしい方々とお会いでき、過ぎた日々を思い出しました。松本会長のご挨拶に「子供を授かつて私の人生は悲しみも喜びも人の倍の人生だった」とありましたが、本当にその通りだとつくづく思います。奈良に何の縁もない私が

四十五年生活し、今ではこの地以外での暮らしは考えられない程です。これも娘が結んでくれた絆であると思います。これからも母娘ともども、宜しくお願い申し上げます。

大和高田市 日下 敬子

今年の冬は大変寒くこの日も大雪を心配した日でした。前日に娘をショートステイさせ朝早くから出かけました。

会場に着くと本部役員の方々の緊張されているのが伝わりました。多くの来賓の方々、ことに荒井知事様をはじめ国会議員の方々も来られていて驚きました。私の住む市からも福祉課の課長や、市立病院の医師も来て下さり感謝でした。小さな父母の会でも運営していく事に困難さを感じますが、奈良県としての父母の会五十年の歩みとはとても大変なものであったと思います。会長の挨拶にもあります。制度も整わず周囲の理解も無い中で、父母の会を立ち上げ基盤を築かれたことは一方ならない努力がおありでしたでしょう。さらに会長が代わられる毎にそれを継承され、その上によい方向へ積み上げてこられた事も、それぞれの時期に並々ならぬご苦労をされたの

ではないでしょうか。

十年程前に大阪市から引越して来て、車を押して歩けない歩道の悪さに驚きました。(大阪市では障害者の方は電動車椅子でひとりで公共交通機関を利用し移動されています) 初めて奈良県の父母の会の研修に参加した時に、「大阪より十年遅れている」といわれる違いを感じました。それは障害者ご自身があまり必要性を感じておられないことや、車で歩いて移動するため車椅子で歩道を歩くとか、電車に乗る事が少なくエレベーターが無くて、またガタガタの歩道でも不便を感じておられないことが理由の一つではないかとも思いました。でも父母の会が会員のために、少しでも役立つようにと様々な知識を得られ、意欲的・献身的に行動された努力が今のようによい方向に変わってきたように思います。それには会長、本部役員の方々が研修会や情報収集、更に各地域の会へのお世話にと尽力されたからではないでしょうか。式典に多くの方々に来て下さることも会が認められ高い評価を受けているゆえだと思えます。

今後さらなる向上を願ってやみません。

しかし制度がよくなり周囲がバリアフリーになっても障害者や家

族は何らかの生きづらさを持つています。また親の高齢化で先々の解決できない難しい課題もあります。でもそれらを負の要因として考えたくありません。

私の娘は全介助で、知的にも幼いですが彼女自身障害に負けない強さと明るさをもっています。そして色々なことにチャレンジしようとしています。これは親として大いに励まされ学ばせられることです。それゆえより強く希望をもつて課題に立ち向かわねばと思っています。生涯人のお世話にならなければ生きていけない娘ゆえに、事業所の方々や、行政、医療関係の方々への助けが不可欠です。その助けを受けながら、更に父母の会の皆様にもお世話になりつつ、いろいろ教えて頂き、互いに助け合い、今の地域で神様に与えられた命をこの障害の子にしか現わせない生き方で輝かせたいと思います。この式典に参加することができ、あらためて県の父母の会に属させていたで良かったと心から思いました。ありがとうございました。



「松本会長退任に際して」

～一道万芸に通ず～

元会員 岡村 美代子

後期高齢者の仲間入りした私にも、小学生の時代がありました。大阪市立住吉小学校六年生の時の担任の先生は、毎週月曜日、教室の黒板の端にその週の言葉として世界の格言・名言を書き記し、朝の会でそれらの説明をして下さいました。

その中の一つに「一道万芸に通ず」という名言がありました。私は病弱で、長期欠席も多かったのですが、この頃はストマイ四十本のお陰ですっかり元気になり学校も先生も大好きでした。今の私からは想像できない程の内向的な性格で、読書好きな父の本棚の本を片端から読んでいました。勿論世界の児童文学全集なども大好きでした。

父の蔵書の中の、吉川英治の「宮本武蔵」「鳴門秘帖」などワクワクしながら読みました。まだまだ幼くて内容の本当の意味が解っていたのか疑問ですが…。多分大人の本を読むという自己満足だったのかもかもしれません。

でも五輪の書の言葉には惹きつけられました。五輪という言葉に

お寺の五輪塔しか思い浮かばず、宮本武蔵と言えば、本を読んでいましたので、巖流島で佐々木小次郎と決闘した人で剣道の達人として有名とだけは知っていました。後年、五輪の書を著した事は知りませんでした。私の中では非常に尊敬できる偉人でした。その人の名言はすーっと心の奥に入り込み長く私の座右の銘となっています。何事にも一生懸命に頑張れば良いのだと思っていました。

高校生の頃、初めて五輪の書を手に取り、序章と地・水・火・風・空の五章からなる兵法書であることとを知りました。けれども単に相手に勝つ為の指南書だけではなく人間としての生き様のお手本であることを学びました。

「一理に達すれば万法に通ず」
好奇心旺盛な私は残念ながら、大切な座右の銘であるはずの言葉を忘れて、色々なことに興味を持ち、結局どの道も極めることは出来ませんでした。

けれども松本倫子会長は一つの道を、福祉という道を極めておられます。単に我が子の為のみにあらず、長い間、多くの障害者に寄り添い、その哀しみや喜びなどにも心を通わせて来られました。その温かい想い、志はこの社会をも少しずつ変えて来られました。私

たち障害者の家族にも身近な所で恩恵を受けていることを確信しています。

自らが病身でありながらも、社会の不条理に敢然と立ち向かうその生き方に、毅然としたその姿勢に、宮本武蔵の説く道を極めつつある求道者のすがたが重なり、私は心から尊敬しております。

今期で会長を退かれるとかお聞きしましたが誠に残念でなりません。しかし五十周年の式典をめでたく盛大に行われ、ご自身で引き際を考えておられたのだと改めて感心させて頂きました。これから温かい目で見守って下さるようによりしくお願いいたします。

3、社会見学事業

◇平成三十年三月四日～五日

◇ユニバーサル・スタジオ・

ジャパン(USJ)

◇参加者 五十二名

この事業は、奈良県共同募金会より助成を受けています。



*参加者の感想

奈良市 今井 成子

今回参加を決めたのは、車椅子の固定できるバスであること、USJ内の障害者トイレにベッドが設置されていること、何よりママ友とサポートしあうことができるといったことからでした。

まずバス乗車ですが、予想していた以上にうれしいようで「キヤーキヤー」大声を出しても喜んでいました。バスに乗ってしまえば落ち着き、窓の外を見て楽しんでいました。

到着後USJに出発、最初にトイレに行くことになりました。スタッフに教えてもらった障害者トイレにはベッドがなく場内のマップを見てベッドのあるトイレを探しました。やっと見つけたのですが、思ったよりトイレの中は狭くベッドの長さも短く車椅子を外に出さないで介助がしにくく私だけの介助ではとても無理でした。

ホテルでは部屋に入るとき、扉を開けながら車椅子を押して入らないといけなく手伝わってもらい入ることができました。部屋のトイレ使用は介助を手伝ってもらい利用できました。トイレの扉引き戸だったので助かりました。

二日目は朝から雨が降り、USJに行くもの、ホテルでゆっくりするもの、それぞれの過ごし方がありました。十二時のチェックアウトまでは部屋でゆっくりすることができですが、その後のことで本部役員さんの話し合いの結果一部屋を延長していただき、おむつ交換やUSJに行き雨に濡れた着替えの部屋として利用させていただきました。みんなが時間差で利用することができとても助かりました。当日の急な対応に感謝いたします。

今回、子どもと一泊の社会見学事業に参加し、まだまだ重度の障害を持つ子供との参加は大変なことはありますがママ友にサポートしてもらえたことやいろんな方の手助けしていただいたことで外泊しやすくなってきているのを実感いたしました。



磯城郡 北川 奈美

姉のお供で一緒に参加させて頂きました。このようになぎやかな場所と一緒に行くことは、ここ最近は無機会でしたので子供心を思い出しとても楽しかったです。姉も外出

は大好きなので居眠りする間もなぐ(与えず?)、ポップコーンバケツを片手にパーク内を散策しお友達とも楽しい時間を過ごすことができました。

車椅子ごと乗車できる観光バスは初めて見るもので、興味津々。座席への座りかえをする場合と車椅子のまま固定する方法どちらも、運転手さんガイドさん共に手際よく安全を第一に考えて対応して下さいました。二日目はあいにくの雨でしたが、とても親切丁寧に安心できるものでした。USJアトラクション

には「サポーターチケット」と呼ばれる優先入場が出来、ミニオンのキャラクターとの写真もバッチリ！私は絶叫が大好きなので、自由時間をもらい雨の中じつと並びバックドロップ(後ろ向きコースター)にも乗る事が出来、満喫させて頂きました。

ホテルやUSJにおいても、昔と比べて車椅子であっても不便さを感じることが減り、それ自体目立つものではなくなったなあと感じる一方、同行されているお父さん、お母さん方の日々の大変さも垣間見る機会となりました。我が家も父が病気で他界し、母がヘルパーさんに助けられているながら姉の介護を頑張っています。母も頑張りたい気持ちはあるけれど、思うようにはいかないと思ひ悩む気持ちを抱えているのは

良く分かります。なかなか一緒に過ごす時間を持ってない中、今回の旅行は僅かながらの親孝行ができれば：と思ったのですが、私自身がとても楽しんでしまいました(笑)

最後になりましたが、今回の旅行の企画から細かい配慮頂きました役員の皆様のおかげで、無事に参加させて頂くことができ感謝致します。またこのような機会がありましたら、是非家族で参加させて頂きたいと思えます。ありがとうございます。

奈良市 森本 卓司

僕は何度もユニバに行っていますが、行くたびに胸がときめきます。この度、肢体不自由児者父母の会からのお誘いがあり、皆さんと同行させて頂きました。お母さんと姪っ子二人も行きましたがとても楽しいでした。三月四日、五日で一泊二日だったのでゆっくりできました。

一日目はホテルに十一時に着きホテルでゆっくりしてからユニバの会場へ行きました。一番印象に残っているのは、ミニオンハウスとハリーポッターです。ミニオンハウスではミニオングッズをたくさん買いました。それから一番行

きたかったハリーポッターのお城がとてもきれいでした。夜だったので池に映し出されるお城がとても幻想的で感激しました。

二日目は雨だったのでですがお母さんと姪っ子達は行きたくなかったのですがホテルでブラブラしました。帰る頃には雨も止んで行こうと思ったのですが時間もあまりなくてやめました。

何度行っても楽しいです。又こんな機会があればバス旅行したいです。僕は外に出てグルメをして色々な所に行きたいです。

今は医療センターに入退院を繰り返しております。退院しているときは、福祉センターのやさなぎ広場に行っています。本言にありがとうございます。



第五十回全国肢体不自由児者
父母の会連合会全国大会
第五十二回近畿肢体不自由児
者福祉大会京都大会

京都テルサ
平成二十九年 九月九日(金)

大和郡山市 持田 聡美

私にとって初めての大会参加
で緊張と期待が入り混じり、ワクワクドキドキでした。

開会セレモニーでは、全国肢体
不自由児者父母の会連合会会歌か
ら始まり、歌があったことすら知
らなかつたので驚きました。

午後からの、アンケート分析報
告及び基調講演では、「障害のある
人の(母)親を対象としたアンケー
ト」報告があり、昨年私自身もア
ンケートに参加させて頂いた結果
を、それぞれのカテゴリーに従っ
てとても解りやすく話してくださ
いました。どれも、自分自身の想
いと近いものがあり私自身が抱え
ている悩みや想いが皆共感されて
いるのだとわかり、少し安心する
ことが出来ました。

その後、「障害のある人の母親
という経験」というテーマで認定
NPO法人ウイメンズアクション

ネットワーク理事長 上野千鶴子
氏のお話を聞きました。たくさん
の貴重なお言葉の中で、一番心に
残ったのは、「母業卒業」子どもの
自立とは、わたしがいなくてもこ
の子は生きていけると思えること
と』というお言葉です。そう思える
ようになるには、自分自身も子ど
もから自立出来るようにならなけ
ればいけないということなのだ
と感じました。まだまだ私自身そう
思うようになるには遠いと思いま
すが、いつかそう思わずにいられ
ない時がくるということを知ると
知らないとは、その日が来たど
きの心のもちようが違うのではな
いでしょうか。

閉会式で開催地 京都市身体障
害児者父母の会連合会会長が話さ
れた、「二人の人間として、人生を
もう少し楽しみながら、そしてよ
り豊かに生きていきたい」それは、
母である自分だけではなく、障害
のある子どもにもそうであって欲
しいと強く思いました。この大会
参加で障害のある我が子や家族、
自分自身を見つめ直す機会になっ
た、充実した一日でした



深い学びの場に感謝して

天理市 牟礼 こなみ

この日、基調講演で上野千鶴子
先生のお話が聞けると知ってから、
何が何でも参加したい！と思いつ
けて叶いました。父母の会に入会
して、このような大会への参加も
初めてでした。

まず、会場に到着すると同時に
目に飛び込んで来る協賛協力企業
のマーク、活気あるスタッフの姿、
始まって次々に挨拶される国、県
市の来賓の方々、全国津々浦々か
ら九一三名の参加者の方々。それ
だけでも父母の会の事を理解する
のに役立ちました。

京都市父母の会は、大会テーマ
「住み慣れた地域で共生社会の実
現」に関わるアンケート調査を実
施、五十回記念となる本大会では、
これまでの主役である「障害児者」
ではなく、介護をほぼ一手に引き
受けてきた家族、特に母親に、そ
のスポットが当てられました。滋
賀、奈良、和歌山、大阪、兵庫、
京都の各父母の会に八十票ずつ配
布され、総数五四五、回収率八十
一・三%の質問票の分析結果です。
1、ひとりの人間として、あなた
自身があきらめてきたこと、
つらかったことは何ですか
2、ひとりの人間として、あなた

自身がうれしかった事は何で
すか

3、これからの生活において、あ
なた自身が望むことは何ですか
子どもではなく(母)親について
知りたい、「ひとりの人間として」
「あなた自身が」という限定をつ
けなければ、障害のある子の親の
回答は、限りなく子ども中心にな
るであろうという予測を調査設計
者(父母の会)は持っていた…etc。
第一章からグイグイと引き込まれ
ました。この本調査の回答の集計
と分析、アフターコーディングに
よる「うえの式質的分析法」での
分析結果から、「あなた自身」を焦
点化することで、「自分自身との関
係」と呼ぶほかないカテゴリーが
浮かび上がる、とあります。また、
十二のカテゴリー、終わらない子
育て、仕事、親に代わる背負い手、
兄弟姉妹、してくれない夫からの
二次的被害、親族の言葉、病院・
医師、学校・先生、世代間格差、
福祉サービスの地域間格差、親亡
き後、父母の会の未来、といった
内容のデータが、立命館大学先端
総合学術研究科上野ゼミをもとに
した分析チーム(大学に所属する
学生以外の社会人メンバー、研究
員、講師、博士、修士の方々)に
よってデータ分散、分析、考察さ
れ、順次発表されました。

「障害のある人の母親という経験」という題でされたこの一連の講演は、会員の自由記述式アンケートを丁寧に取り組む、確かな根拠を踏まえてあり、動かしようのない説得力がありました。

また、七十代以上Ⅱパイオニア世代、六十代Ⅱ制度拡充期世代、五十代Ⅱ制度整備期世代、四十代以下Ⅱサービスクラス消費世代、と浮かび上がってきたくりが、一層話を解りやすくしました。諸先輩の方々が、何もないところから必死で奔走、尽力され、奈良養護学校が出来、更に大変な努力をされ続けて卒業後の居場所となる生活介護事業所をはじめ様々な福祉の制度とサービスクラスまでが実現している所以です。声を挙げずには、なされなかつたであろう今の社会資源を、交渉しなくても目の前にある私たちサービスクラス消費世代をフリーライダー（タダ乗り）とばつさり言われる上野先生が、清々しくさへ思いました。

ながりがキーワードであり、答えは私たち会員の中にあると言われました。

当初は上野先生の著書や新聞のコラムを読んで「畑ちがいのよいうな気がする上野先生に何故？」と思っていたのですが、京都市父母の会の方の真剣な取り組みからこのような素晴らしい研究と講演になったことが解りました。上野先生のような方に父母の会の事、障害を持つ子どもたちと親の事を深く知ってもらえた事も嬉しいです。次世代への大きなアクションとなりえたこの全国大会に参加できたことがありがたく、頂いた資料は宝物となりました。

人と人との関係が、どんどん希薄になり無縁社会と言われる世の中です。障害者の命の存在を発信し、理解してもらえ世の中にしていくために、ひとりひとり微力を合わせた大きな力で、これからも声を挙げ続ける。今後の為の大変貴重な勉強が出来た素晴らしい一日でありました。



近畿ブロック

地域指導者育成セミナー

「防災・災害時対応について」

和歌山ビッグ愛

平成二十九年十一月四日～五日

本部役員 宿利 三知恵

今年度のテーマは昨年を引き続き「防災・災害時対応について」で、盛りだくさんの内容でした。

まず初日、全国社会福祉協議会副部長の園崎秀治氏が「災害時のボランティア活動と支援のネットワーク」と題し、国内外多くの被災地を訪れた経験と実態を講演されました。

各地域にある社会福祉協議会には「災害ボランティアセンター」の設置（市長等が設置を発令する）を法的に位置づけられています。その役目は、被災地外からのボランティアに対して具体的に指示しコーディネートすることです。

共助による支援体制がしっかりとっていて、行政ではできない被災地外からのボランティアの力が発揮される地域は、災害に強い。災害ボランティアセンターでは、ボランティア力を発揮できるような被災地側からどのような状況なの

か積極的に伝える「受援力」を高めることが大切である。日常的に社会福祉協議会が地域の中でどれだけ位置づけられているか、被災する前から関係づくりを大事にすることが災害時に生かされると述べられました。

次に社会福祉法人大阪ボランティア協会の事務局局長永井美佳氏より「被災地で見えたスペシャリストとそれに対する支援の実際」について、園崎氏との対談がありました。

熊本地震災害における大阪ボランティア協会の活動として、災害時のスペシャリスト（特別な配慮が必要な要請）に応えるために『被災地障害者センターくまもと』を日本障害フオーラムと連携し設立支援されました。そこでは、被災した障害者の把握、センター告知チラシ配布、避難所訪問などの、障害者支援に携わってこれられました。活動していく中で、被災時により早く障害者に支援を届けるには、多くの人が必要になり、専門職だけでなくボランティアが活躍できる多様な活動があることが確認できました。

平時から人脈を広げる取り組みが重要であると話され、地元でなく、知らない街でも被災する場合も多く避難所の確認などシミュ

レーションすることもよいと話されました。

そのあと、六人一組になってグループ討議をし、①災害時に連携したい団体。②ボランティアやボランティアセンターと連携できること。を考え、グループで共有し発表しました。

翌日、全肢連副会長の石橋吉章氏より「災害対策基本法の改正」について講演がありました。

平成二十八年五月に改正され、『要支援者名簿』から『避難行動要支援者名簿』と名称が変更されました。

次にワークショップとして、「クロスロード・防災ゲーム」と非難補助具、支援機器の体験、災害備蓄品の試食をしました。防災ゲームは、五、六人のグループに分かれ、質問に対してイエス・ノーの札を出し、その理由を出し合いました。

一、支援者名簿を災害支援者自主グループやボランティアに開示してもよいか？

二、災害時にはご近所付き合いが大切と言われるが、障害のある子どもがいても自治会（町内会）に入るか？

三、自宅で地震が起きた！家には年離れた親が同居、障害の子どもは今福祉事業所にいる。

車で迎えに行くか？

四、地震で自宅が半壊、備蓄食料の保管があまりないし自宅にこのまま居るのは不安である。避難所に移るか？

の四つの質問に対し、活発に意見が出ました。避難経験の有無、地域や立場が変われば、意見も異なり少数意見であっても考えさせられました。防災ゲームは、是非会員の皆さんにもやっていただきたいと感じました。

その後避難補助具、支援機器の体験、災害備蓄品の試食をし、開催地和歌山から、緊急用トイレセット（段ボール製）の紹介もありました。

今回のセミナーは自助・共助・公助の『共助』に焦点を当て「災害ボランティア」「スペシャルニーズ」をキーワードに、参加型で有意義なセミナーでした

天理市 山内 悦子

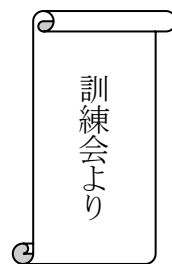
一日目は「災害時のボランティア活動と支援のネットワーク」と題し、支援を受ける側としての視点から全国ボランティア・市民活動振興センターの園崎氏、また市民活動としてボランティアをする側から大阪ボランティア協会の永

井氏が、それぞれ講演されました。その上で具体例を取り上げ、お二人のディスカッションがあり、その後参加者全員が小人数のグループ毎に自分の考えや疑問点を出し合い意見をまとめ発表し、それに対するお二人の考えや答えをお話し下さいました。私はこの様な形での研修会は初めてでしたが多くの方の意見や問題点が示され、とても活発な意見交換の場となりました。

二日目は「災害対策基本法の改正」について全肢連副会長石橋氏のお話を伺いました。実行性のある避難支援をする為に、「避難行動要支援者名簿」の作成が市町村に義務付けられ、その名簿情報は災害発生時には避難支援等関係者（警察・消防・社会福祉協議会・民生児童委員等）に無条件で提供出来るといった事です。もちろん「提供を受けた者に守秘義務を課すと共に、市町村においては情報漏えいの防止の必要な措置をとる」となっています。

阪神淡路の大震災から―東日本大震災―広島土砂災害―熊本地震―今年七月の福岡豪雨災害と、近年想定外とされる災害が各地で発生し、私達のだれかが、いつ、どこで、どんな災害にあうかわからない状況の中、今回災害に遭遇

した時、いかに、少しでもより良い方向に行動するべきかを真剣に考えるよい機会を与えていただいたと感謝しております。ありがとうございました。



仔鹿会

会長 太田 圭子

平成二十九年度も、毎月の月例会、六月のミニミニキャンプ、第四十八回奈良心理リハビリテーション療育キャンプ、第四十三回心理リハビリテーション全国大会（岡山）と一年間の活動を無事に終えることができました。ご支援いただいております皆様から感謝申し上げます。

夏の療育キャンプは、総合指導に福岡県の「しいのみ学園」から鼻地勝人先生、キャンプ長に毛利孝先生をお迎えして八月十七日から二十三日まで宇陀市の椿寿荘で行いました。今回初めてキャンプマネージャーをされる先生のもと若い先生方や初参加の先生もおられ、例年とは違った雰囲気なキャンプとなりました。先生方のお子

さんや参加トレーナーのお姉さんの参加があり、トレーナーの先生の補助をつとめたり、トレーナーの小さな妹の遊び相手となって参加者のお母さんを助けたりと大いに活躍してくれました。

私も息子が経管栄養になってから初めてのキャンプで、参加するにあたり不安な気持ちはありましたが、みんな協力し助け合うというようなあたたかい空気がキャンプ全体にあり、本当に困った時にはみんなに助けてもらおうと自然と思えました。キャンプに参加してみたいという思いを持ちながら、不安やためらいがある人には、そのようなキャンプの様子を伝える事で背中を後押しすることができればと思います。

岡山で行われた全国大会には先生方十五名、保護者二名の総勢十七名で参加しました。くらしき作陽大学の橋本正巳教授が大会長をされていて多くの学生が参加し、若さと活気にあふれる大会でした。二日目の分科会では「キャンプ・月例会における取り組み」に参加しました。岡山県立岡山東支援学校の乗金先生の発表ではキャンプへの新規の教員の参加が少ない、継続的に参加するトレーナーが増えない、との課題をあげられました。奈良でも新たに、動作法を学

ぼうと参加してくださる先生はいらっしゃいますが、先生方にとって仔鹿会が有意義な場所になるように、会の活動を支えてくださる先生方のお力をお借りして私たち保護者も努力していきたいと思えます。

また保護者の高齢化で月例会やキャンプに連れていくことが困難になってきているとのこと。これもまた仔鹿会のこれからの課題でもあります。

改めて仔鹿会のこれまでを振り返りますと先輩のお母さん方が身体に障がいのある我が子連れ九州大学名誉教授 成瀬悟策氏を訪ねて九州の療育キャンプに参加したのを始まりとし、奈良県でのキャンプは一九七一年に開催して以来、休むことなく毎年行われてきました。奈良でのキャンプを定着させるため、養護学校の先生に「トレーナーになるためにキャンプに来てほしい」と直談判されたとも伺っています。父母の会の活動の際に、先輩のお母さんから「子どもが小さい時に仔鹿会のキャンプに参加したのよ。」とお声をかけていたことが何度かありました。そのことでそのお母さんと仔鹿会を通じてつながれたような何だかほのぼのと温かい嬉しい気持ちになりました。そのような

方たちが会の長い歴史を築いてくださったのだと改めて感謝し、そして会の活動を未来につないでいけるよう会員で力を合わせて歩んでいきたいと思っております。

今後とも仔鹿会の活動にご指導、ご支援いただきますよう心よりお願い申し上げます。

キャンプに参加して



仲川 葵

今年で十回目のさんかになります。小学生のころは、くんれんが、いやな時もありましたが今では、トレーナーの先生と楽しく、くんれんにとりくむことが出来ています。今回は、ひざ立ちで、こしを左右の方向へうごかすれんしゅうをしたり、立位でかた足ずつ、こうごに重心をかけ、足をふみしめ歩くれんしゅうをしました。家や学校でもがんばりたいと思いました。

陽だまり笑顔の会

代表 世良 桂子

今年も皆様にご支援いただき講師の先生、中先生、和田先生はじめ多くの先生方のご指導のもと、静的弛緩誘導法を学ばせて頂き本

当に有難うございました。

奈良市総合福祉センター、バルツァ・ゴードル、生活介護「日和」の三会場で、それぞれ毎月、延べ二十八回行われました。

集中学習会は、九月二十三・二十四日に奈良市総合福祉センターで、元筑波大学付属桐ヶ丘支援学校教師で、理学療法士の志垣先生、石毛先生、佐々木先生をお迎えして、二日間で延べ十八家族が参加しました。

静的弛緩誘導法をベースにしたやり取りを通して、生活の基盤を整えることを目的として、親や研修生、参加者の個別課題を中心とした実技研修がありました。普段、車椅子に背中をもたれて座っている状態から、背もたれのないまるる椅子に座り、後ろからそっと支えると側弯で傾いていた身体がまっすぐに伸びました。

三月二十五日にバルツァ・ゴードル会場で、生活介護「日和」と「どんぐり」も参加して行われた集中学習会は、名古屋NPO法人「ひろがり」代表の丹羽先生をお迎えしました。『障害の重い子のためのおふれあい体操』の歌に合わせて身体に触れるコミュニケーションをとることの大切さを教わりました。首、喉、顎、唇、頬を中心に、食べる力・息をする力を確か

お詫びと訂正

50周年記念誌「道」の記載内容に誤りがございました。下記の通り訂正をさせていただきます。ご迷惑をおかけしましたこと深くお詫び申し上げます。

記

正誤表

- ① P 46 障害者権利条約を批准
 【誤】 平成25年1月
 ↓
 【正】 平成26年1月
- ② P 46 障害者の日常生活及び・・・
 【誤】 平成27年3月
 ↓
 【正】 平成28年3月

以上

なものにする関わり方を学びました。参加された方は、声が出しやすくなり、よだれが出なくなり、飲み込みやすくなりました。

これらの一年の活動により、参加された施設の職員の方々が日頃の支援のなかに取り入れて下さっています。親も教わったように家で子供に触れたり関わったりするよう心掛けています。

ほんの一例ですが、車椅子での生活が長くなって腰痛に苦しんでいた方が、学習会に参加されて足の小指の大切さを教わり、家族や職員さんから足指に触れてもらっ

関わり方をしてもらおうようになって、腰痛から解放され、姿勢もよくなり、生活の中に笑顔が戻ったとお聞きしています。

これからも、障害による生きづらさを少しでも楽にするため、学んでいきたいと思えます。本年も陽だまり笑顔の会の活動にご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



第51回肢体不自由児者父母の会連合会全国大会
 第31回全道肢体不自由児者福祉大会 函館大会

テーマ：「住み慣れた地域で、共生社会の実現」
 ～安心・安全に誰もが豊かに生きる未来をめざして～

日程：9月29日（土）～30日（日）
 大会会場：函館アリーナ
 情報交換会場：花びしホテル

- *一日目の分科会内容は次の予定
- 第1分科会（福祉1）「所得保障、就労、グループホーム等」
- 第2分科会（福祉2）「医療的ケア、福祉サービス等」
- 第3分科会（教育）「医療的ケア児の教育環境整備等」
- 第4分科会（本人・当事者部会）*参加当事者によるフリーディスカッション



近畿ブロック地域指導者育成セミナー

テーマ：「肢体不自由児者への合理的配慮とは」
 ～地域で住まいの場と、意思決定支援～

日程：12月1日（土）～2日（日）
 会場：ホテルポストンプラザ草津 びわ湖

第53回近畿肢体不自由児者福祉大会

テーマ：ワクワク・ドキドキ・笑顔がいっぱいの
共生社会を目指そう！！

日程：10月27日（土）

会場：和歌山ビッグ愛

基調講演：柳岡克子 氏（やなおかよしこ）
「障害児者の親として子に何を残す？
子の思い、親の思い」

分科会①

講師：鹿野佐代子 氏

演題：「障害のある人の親亡き後のライフプラン」

分科会②

講師：明石市社会福祉協議会事務局総合相談支援室
権利擁護支援課 権利擁護推進担当課長
弁護士 青木志帆 氏

演題：障害者差別解消法（合理的配慮）について

分科会③

講師：一般社団法人和歌山県就労センター協議会
会長 山添高道 氏
社会福祉法人おもと会 おもと園
園長 杉谷 修 氏

演題：就労支援と住まいの在り方について

本年度の行事予定

全肢連さわやかレクリエーション事業

◇ 講演「どんな準備が必要、
何から始めたらいいの？」

講師：山口まゆみ 氏

行政書士・終活カウンセラー・
ファイナンシャルプランナー

会場：奈良県社会福祉センター
研修室B・C

日程：6月7日（木）

◇ 「ボッチャを体験しよう」
9月もしくは10月開催予定！

◇ 親子交流事業
心魂プロジェクトさんからの贈り物
「親子で楽しむつどい」

会場：奈良ロイヤルホテル

日程：12月1日（土）



第6回チャリティー書画展

日程：12月22日（土）
～23日（日）

会場：東京都日本橋
「奈良 まほろば館」



◇第49回奈良心理リハビリテーション
療育キャンプ（仔鹿会）

会場：かぎろひの里「椿寿荘」

日程：8月8日（水）～8月14日（火）

◇静的弛緩誘導法 親子集中学習会
（陽だまり笑顔の会）

会場：奈良市総合福祉センター

日程：9月22日（土）、23日（日）

編集後記

梅雨の季節を迎え季節の花も美しい今日この頃いかがお過ごしでしょうか。

今号は、五十周年記念事業を中心に充実した内容となりました。お忙しい中、ご寄稿下さった皆様、誠にありがとうございます。

新年度も皆で力を合わせ活動を進めていきます、どうぞよろしくお願いいたします。

式典、終わりの言葉から

みんながいるから
笑顔になれる
優しく支えてくれるから
頑張ろうと思える
みんなに出会えて
ほんとうによかった
ありがとうございます

◇ご案内いたしました行事予定は随時、詳細をご連絡いたします。
皆様、お誘い合わせの上、ご参加くださいますようよろしくお願いたします。